

2022年度 自己評価・学校関係者評価報告書

園田学園女子大学附属園田学園幼稚園

1 本園の教育目標

生き生きと力いっぱい遊ぶ子ども

じょうぶなからだ

ゆたかなこころ

すすんでやる気

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領・保育所保育指針を踏まえ、一人一人の子どもを大切にされた質の高い教育・保育の実践を目指す。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育・保育の質向上のために園内研修を充実させる。	B	iPad を使って研修をすることは 2 年目になり、それぞれの教員が保育の様子の記録として積極的に役立てるようになった。今年度は造形についての研修を中心に行う予定だった。絵画や造形指導のビデオをみんなで見合う研修を行ったが、教員の意識が大きく変わったりすることはなかった。公立幼稚園の公開保育には一人 1 回は参加するようにし、実際の環境、援助などを見て研修する機会を設けた。
2	同法人の高等学校・大学とはもとより近隣小学校との連携を進める。	B	高校・大学との連携についてはコロナ禍で見送っていた交流等ができるようになり増えた。小学校見学も今年度は授業の様子を参観することができ、有意義だった。大学との交流のやり取りについては、回数が多く、煩雑になりつつある。
3	安全に子どもたちが生活できるように環境を整備する。	B	玄関の解錠ボタンを高い位置に移設した。週 3 回（火・木・金）は夕方に警備員さんを配置している。夕方の安全面の強化はできたと思っている。「ぼうけんらんど」の雲梯、ボルダリング、登り棒の下にセーフティマットを設置予定である（3/23 工事）

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4 総合的な評価結果

評価	理由
B	それぞれの項目に課題も残るが、昨年度に加えた取り組み（公開保育参加、解錠ボタンの移設、セーフティマットの設置等）もできた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育・保育の質向上	タブレットを活用した園内研修を充実させる。 公開保育がある研修に参加し、見て学ぶ機会を確保する。
2	安全な生活	特に門の開閉についての安全を考えていく。
3	保護者会のあり方	保護者会のサポートをできるように役員方との連携をより強くしていく。

6 学校関係者評価委員会の評価

- どの項目も一定の成果は見えた。
- ドアの開閉について、解錠ボタンを上へ移動したことで、子どもが自分で押して出ていく可能性が減っていることがわかった。
- 安全面で考えると、門に警備員が立っていることでの抑止力、効果は大きいと思う。しかし、予算の関係でこれ以上の配置が無理な場合は、地域のボランティアの活用を考えられないか。小学校ではコミュニティスクールを立ち上げ、地域の方と共に子どもを育てるという流れになっている。幼稚園でも同様な考え方で地域のボランティアの活用を考えていくのはどうだろうか。
- 保護者会のあり方については、小学校におけるPTA活動も同様である。働く方が多くなり、PTA役員を引き受ける方が少なくなっている。中にはPTA組織がなくなり、ボランティアになっているところもある。しかしながら、幼稚園や小学校の教育活動では、教職員は子どもを見るので、安全面等のサポートを保護者の方をお願いする等、保護者の方の力があってこそできることもある。働いている方もできるような保護者会のあり方を今後検討していく必要がある。